



暑い夏に行きたいーおすすめ見どころー湧き水

夏まっさかりとなりました。暑くなる、どこか涼しさを感じられる場所を求めたくなります。

今回は、暑い夏でも冷たい水が流れている「湧き水」(地下を流れている水が何らかの理由で地上に吹き出たもの)について、一般財団法人新潟県環境衛生研究所発行の「佐渡の湧き水〜貴重な自然をたずねる〜」をもとに、8月から9月で水温がもっとも低い『湧き水ベスト3』をご紹介します。

佐渡は島であることから、地下水の保有量が少なく一般的な地下水と比べて季節による水温の変化が見られやすいという特徴があります。しかし、今回ご紹介する湧き水は、季節変化がほとんどないことから、水が地下に浸透してから比較的長い時間をかけて地上に湧き出た水だと考えられます。

冷たさ1位(11℃)

「鱒清水」(赤泊)

名前にあるとおり、鱒がかつて水を吐いていたという伝説が残る場所であり、新潟県の名水にも選ばれています。

冷たさ2位(11.4℃)

「虚空蔵清水」(両津)

近くに虚空蔵堂が建てられていることから、この名前が付いています。須恵器という古墳時代から平安時代まで生産されていた土器が近くで見つかっていることから昔から人々がこの湧き水を使用していたと考えられています。

冷たさ3位(11.5℃)

「大清水」(両津)

鎌倉時代から地元の農業用水として使われていたと考えられており、現在でも柵田への水源の一端を担っています。

人々の生活に昔からかわりがある湧き水から人と大地の関係を考えられるのもジオパークの楽しみです。この夏は「涼」を求めて湧き水を訪ねてみてはいかがでしょう。

⑤教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室

(畑野行政サービスセンター内)

☎66-4160

トキ野生復帰にむけて 165

今期の野生下トキの繁殖期終了

7月6日、環境省から今期の野生下トキの繁殖期が終了したことが発表されました。今期は77ペアが営巣し、32ペアから67羽のヒナが誕生し、うち27ペアから60羽のトキが巣立ちました。

昨年の結果(31ペアから77羽の巣立ち)から比べて少なくなっていますが、これは冬の大雪により栄養が十分に取れなかったことや強風で巣が壊れてしまったことが影響していると考えられています。

今年の繁殖により、佐渡の野生下トキの数は357羽(7月6日現在)になりました。



環境省提供

トキ環境整備基金へのご寄付ありがとうございました

6月5日、株式会社メニコン様から同社が販売する稲わら分解剤がトキの冬のエサ場確保に繋がるふゆみず田んぼの取り組みに活用されていることから、製品の売上げの一部をご寄付いただきました。

また、同日、小千谷市在住で県内を中心に全国で活動をしているシンガーソングライターのRuu様からも、自身が佐渡に1カ月間滞在して作曲した「トキまた会おうね」のCDの売上げをご寄付いただきました。



寄付金を贈呈した株式会社メニコン様(左)とRuu様(右)

⑤産業観光部農業政策課

トキ保護係(トキ交流会館内) ☎24-6040